

築地は帝国海軍揺籃の地である。江戸時代末期、幕府は海軍寮増強を目的に築地に講武所を設けて軍艦操練所を設置したのを嚆矢として、明治以降海軍用地として、海軍の施設が多数配置されていた。

先般昼休みに界限をウォーキングしてそれらを訪ね歩いた。以下その概要である。残念ながら、寡聞にして小生のウォーキング範囲内に帝国陸軍関係の史跡は知らない。悪玉陸軍を思い出すのも汚らわしいのか。海軍善玉、陸軍悪玉の悪しき二元論があるようで気になる。閑話休題、本記の主題である築地の海軍関係の史跡を紹介する。

皇居から築地の海軍兵学寮等に通じる道路（泰明小学校前道路含む）を「みゆき通り」と称するが、これも天皇陛下が行幸されたからであろう。

#### ① 海軍本省 築地5丁目2-1

築地市場内の一角に水神社があり、その地が海軍発祥の地である。元尾張藩別邸であったこの地に、明治5年（1872年）に海軍省が創立された。

「海軍卿旗」（海軍大臣）を掲揚した浴恩園内の築山は、「旗山」と呼ばれて碑が建立されている。この地には魚河岸水神社（遥拝所）が鎮座しており、その由来（写真中央）には次のように記述されている。

「水神社の歴史は古く、天正18年（1590）徳川家康公江戸入府とともに、移転してきた日本橋魚河岸市場の開祖森孫右衛門ら撰津国の佃村、大和田村の獵師達が、大漁、海上安全と子孫繁栄を祈願して「弥都波能売命（みずはのめのみこと）を祀った「大市場交易神」がそのはじまりと言われていいます

明治34年に、神田明神の境内に「水神社」本殿が建立され、日本橋魚市場は関東大震災以後に築地に移転し、現在地に遥拝所が建立された。依頼、魚市場の守護神として「水神さま」とお呼びし魚河岸の人々の篤い崇敬によって大切に守られています。

この場所は、江戸時代は松平定信公庭園跡で、明治維新後は海軍用地となり、境内にある「旗山」の碑は日本海軍発祥の地のゆかりを示す貴重な史跡です。」



② 海軍兵学寮 築地5丁目1-1

現在国立がんセンターの采女橋東交差点入り口、塀に沿って「海軍兵学寮跡」と「海軍軍医学校」の碑が建立されている。

この地は、元芸州藩屋敷であった。1869年（明治2年）に海軍操練所として創立され、翌明治3年（1880年）に海軍兵学寮に、更には明治9年（1876年）に海軍兵学校に改称された。爾来明治20年（1887年）に海軍兵学校が広島江田島に移転されるまで、この地で海軍士官の養成が行われた。



③ 海軍軍医学校 築地5丁目1-1

海軍兵学寮碑と隣接して建立されている。軍医学校は廃止、再興、改称、そして移転とその変転は目まぐるしい。明治6年（1873年）、海軍病院付属学舎として創立、明治13年（1880年）に廃校、明治15年（1882年）に海軍医務局学舎として芝に再興、明治22年（1889年）に海軍軍医学校と改称され、明治41年（1908年）には築地に移転、昭和4年（1929年）には築地5丁目に新築移転された。



④ 海軍操練所

安政4年（1857年）、徳川幕府が講武所内に海軍教授所を開設、勝海舟が砲術教授となり改称、オランダから寄贈された観光丸で乗員訓練が行われた。

碑には、次のように記述してあった。

「軍艦操練所跡 所在地 中央区築地六・二十先

現在、中央卸売市場となっている一帯の土地は、かつて、江戸幕府の軍艦操練所があった所です。

安政四年（一八五七）四月、外洋航海の必要性から幕府は旗本、御家人、その他の希望者を集めて、航海術・海上砲術の講習およびオランダから購入した軍艦の運転を練習させる学校を設置しました。軍艦操練所と名付け、頭取（向井将監・勝海舟等が就任）以下、教授方出役・取調方等を任命しました。

元治元年（一八六四）に焼失して、南隣の松平安芸守の屋敷に仮移転し、慶応二年（一八六六）七月、海軍所と改称しました。同年十一月、再び類焼して現在の浜離宮に移り、跡地には、日本最初の様式ホテルである築地ホテル館が建ちました。

平成十一年三月 中央区教育委員会」

神戸海軍操練所、長崎海軍伝習所など当時の明治政府が海軍建設に意欲的に取り組んでいたことが偲ばれる。



#### ⑤ 海軍経理学校

1874年（明治7年）に海軍会計学舎として創設され、第二次世界大戦終結後、帝国海軍が解体されるまで置かれた海軍主計科要員の養成学校で、海軍兵学校、海軍機関学校と共に旧海軍三校の一つである。

明治21年にそれまで芝山内天神谷にあった海軍会計舎を移転、明治40年改名、昭和7年に勝鬨橋西詰に移転された。

